

日五十月八年三十四治明

(416)

のため其大略を記述すべし。

先づ最初目に觸るゝは成蟲の大きなり、コルベ氏は日本產白蟻に二種の別あるを認め (Berl. Entomol. Zeits., Bd. 29, IIlt. 1, p. 142.) 其小なる方に *spporatus* なる新稱を付したる旨記されたるが予の標本に於てさきに *flavipes* として記載せるものは平均六・五ミ、メ、の體長を有するに反し今回送付せられたる成蟲は平均四・五ミ、メ、少しく膨脹せるものを見るべし) 甚しき相違あり、且つ又 *flavipes* に於ては尾端翅の半に達し前胸心臓形を呈せる

L. flavipes.

L. operatus.



成虫

成虫

成虫

に反し (在來の標本は全く一致す) 岡山産のものは尾端翅の基底より $\frac{3}{5}$ の點に終り前胸稍扁平にして前後兩緣共に中央部凹入す、其他兵蟻に於てはコルベ氏の示せるが如く

前者は頭部長方形に近く兩側殆ど平行せるに反し後者は圓味を帶び兩側弧狀の線を以て界せらるゝ外大顎及び前胸共に既記の如き相違あり、之等の諸點を綜合して思考するに今回岡山及び愛媛二地方に發生せる白蟻は北は北海道より南は中國、四國に分布するものなるを知るに足るべし、次に兩種の兵蟻並びに成蟲の前胸を圖解し以て此の稿を終りとなさむ。

●日本產蟻類に就きて

理學士 矢野宗幹

(明治四十三年六月二十七日受領)

一、緒言

日本產蟻類に就きては未だ本邦學者の一瞥を経ざるに係らず歐米蟻學者の攻究する所となり已に記録せらるゝもの七十に餘れり、然しながら是等の材料は斷片的採品にして未だ本邦產蟻類誌を完成するに足らず、是が爲めには必ず身本邦の地にありて親しく採集研究するの要ありと信ず、且つ又近時長足の發達を爲せる蟻類生態學の方面の材料の如き大に調査するの價値ある可きを思ひ、一年以來來其の研究に從事せり。

本編述べんとする所は、理科大學動物學教室にありて飯